

植物の共同研究を推進

スリランカ・ペラデニア大学と基本合意書(LOI)を締結

株式会社アルビオン(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林 章一、以下アルビオン)は、University of Peradeniya(所在地:スリランカ民主社会主義共和国キャンディ、以下ペラデニア大学)と、スリランカの植物に関する研究を推進することに合意し、基本合意書(LOI)を締結したことをお知らせいたします。



基本合意書(LOI)の取り交わしの様子。

左から、ペラデニア大学・Terrence Madhujith副学長、アルビオン・小林 章一社長

■経緯

島国スリランカは、固有の植物の宝庫であり、アーユルヴェーダ(薬草を生かした伝統医療)が盛んであることから、アルビオンはこの地の植物に着目。貴重な植物資源を守りながら持続的開発を行うため、2014年に東京農業大学と共同で「スリランカ伝統植物研究所」を開設しました。その後、2017年に研究棟や薬草園を拡大し、2018年には量産用圃場の運用を開始。実用化されていない植物の分析や新規成分の開拓などを行い、新しい化粧品用のエキス開発を目指すと共に、現地に利益や技術を還元し産業を支援する研究活動を進めてきました。

スリランカ固有の植物に着目するなか、植物研究に力を入れているペラデニア大学の協力を得ることで両者のさらなる発展が期待できるとの認識で一致し、このたびの共同研究を推進することとなりました。

去る2024年11月19日、スリランカのペラデニア大学にて基本合意書の取り交わしを行いました。ペラデニア大学のTerrence Madhujith副学長は「このような取り組みは両者に実り多い果実をもたらすでしょう。学生達の実力開発の点からも、皆様のお力添えを頼もしく感じています。」と謝辞を述べられ、小林社長もそれに賛同しました。

■今後の展望

ペラデニア大学の保有する植物資源の効能解析のほか、化粧品原料候補植物の栽培・増産方法の検討など、それぞれが保有するデータや研究資源を相互活用しながら広く研究を行い、植物のチカラを最大限に引き出した、より独自性の高い新たなオリジナル植物エキスの開発を目指してまいります。また、開発したエキスの商品化も見据えながら、引き続き広く植物資源を探索し、まだ実用化されていない有用成分の開拓を進めてまいります。

■資料

【スリランカ伝統植物研究所 概要】

I. ワイカーラ研究所

所在地：Thoppuwa Junction Chilaw Road Waikkala, Sri Lanka

施設：研究棟



II. ゴダーラ研究所

所在地：Shantha Sebastian Mawatha Shantha Helan Mawatha
Godalla Dankotuwa, Sri Lanka

施設：薬草園(約5,000m²)



III. モホットテムラ第3薬草園

所在地：Dostharawaththa Mohottimulla Dankotuwa, Sri Lanka

施設：薬草園(約8,000 m²)



【ペラデニア大学(University of Peradeniya)】

所在地：Galaha Rd, 20400, Sri Lanka

副学長：Terrence Madhujith



【スリランカ民主社会主義共和国・キャンディ】

キャンディ県はスリランカ内陸の中央高地上にあり、南北に並ぶ中部州3県の中央に位置する。

県の中央付近には仏教の聖地でもある仏歯寺が存在する。

仏歯寺、王宮建造物群を含むキャンディの文化財は、1988年に「聖地キャンディ」として世界文化遺産に登録された。

